

学部・研究科名 生物産業学部

学部長・研究科委員長名 吉田穂積

学科名・専攻名 北方圏農学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	分子から生態系まで 作物・家畜から野生動植物まで 基礎から応用までの幅広い知識を実践的に学ぶことができることが本学科の特徴である。これらを無理なく学ぶことのできるカリキュラムを配当している。	・各教員における講義毎の見直し ・講義毎あるいは定期的な受講生からのコメントの回収と分析 ・オンラインツールやオンデマンド教材を使用したインタラクティブ講義の工夫。 ・授業評価の実施と結果の分析 ・学科独自内容のリメディアル教育	・学則とシラバスに基づき、教員各個人が適切な評価を行っている。 ・学務の方針に基づき、評価とその報告をもれなく行っている。 ・学生からの「成績相談」に真摯に対応している。	・前期と後期に1回ずつの個人面談を実施し、個人の目標設定を補助。 ・定期試験や課題による評価。 ・欠席多数になった学生がいた場合、毎週の会議において報告・共有し、担任を中心に連絡をとり必要であるならば保護者に連絡をしている。	・新カリキュラム制定に向けて、抜本的な見直しを行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・高校のカリキュラムに依存せず、自分の興味を発展できる	【長所】 ・学生の資質に配慮した講義	【長所】 ・適切である。	【長所】 ・学生の質の担保 ・学生の満足度向上	【長所】 ・学生にとって負担が少なくより理解度の高い授業構成となる予定。
	【特色】 ・卒業研究に必要な専門性の高い知識を得るための導入となる。	【特色】 ・自身の講義の質向上に工夫をする教員が居る。	【特色】 ・適切である。	【特色】 ・教科担当と担任が連携したきめ細かな指導。	【特色】幅の広い内容をカバー 分子から生態系まで 作物・家畜から野生動植物まで 基礎から応用まで
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・複数教員が担当する実験、実習では評価の集約（学期末）まで学生の問題点が明確にならない場合がある。	【問題点】 ・授業数のバランスに配慮する ・分野間の授業数が学年ごとにやや不整合がある。
	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし。	【課題】 ・なし	【課題】 ・教科によっては期末評価に頼らず、中間評価で成績不振学生を指導する	【課題】 ・より良いカリキュラムとする。
根拠資料名	・シラバス ・カリキュラムツリー	・シラバス ・授業評価アンケート結果 ・自己点検	・各授業の成績・出席記録 ・実験・実習の記録 ・テストおよびレポートの記録	・各授業の成績 ・実験・実習の記録 ・テストおよびレポートの記録 ・成長の記録（カルテ）	・学科会議資料

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・アドミッションポリシーは「大学案内」およびウェブに公開している。 ・キャンパス説明会等においてアドミッションポリシーを説明している。 ・推薦系入試の小論文出題においては、アドミッションポリシーに基づいた出題とし、その理解度を口頭試問において問うている。 ・入試について事前に会議で確認し当日の面接は2名で行っている。 ・（公正性）入試結果は学科合否判定会議において報告と共有し、公正性を保つように配慮している。	・入試制度については毎年度点検している。 ・会議において入試毎に事前・事後の話し合いをもっている。 ・入学受験制度別に入学者の成績の追跡を行い、検証している。 ・入試候補を含めて学生受け入れについて学科メンバーの意見交換が活発になされている。 ・学科入試対策委員会を設置した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・入学に際し学科の特徴をよく理解して志望する機会を与えている。 ・入学後に自学科と志望のずれがなく、目的をもって大学生活を送ることのできる学生を増やす効果が期待できる。	【長所】 ・情報の共有と意見交換がなされている。 ・入試制度と入学後の成績を追跡して検証している。 ・学科入試対策委員において学科の入試対策について様々な提言がされている。
	【特色】 勉学だけでなく、キャンパスの地域特性に合った学生の資質を評価すべく工夫している。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・農学全体の受験者数減少対応が必要であり、年内入試受験者の動向を早めに把握する必要がある。	【問題点】 ・多様な入試制度は入学した学生の学力差や意識の差をもたらす可能性がある。
	【課題】 ・入学受験制度別に入学者の成績の追跡を行い、検証していく。	【課題】 ・入学後のリメディアル教育の充実
根拠資料名	・入試合否判定内部資料 ・大学案内	学科会議資料 学科入試対策委員会資料 学部入試対策委員会資料

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☒ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☒ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	・現編成については「学部・学科・課程紹介」に記載。 ・方針については学科教授会メンバーに開示している。 ・学科定員数を 91 名に減少したことに伴う段階的な学科教員数減を課題として共有した（学科教授会と教授以下の職階には職場面談時に提示。）	・教員配置は前年度と変更がない。 ・教員の年齢や職階について定期的に確認を行い、特に若手研究者の研究実績向上を意識した補職選定等の編成に努めている。	・年度初めに学科教授会において昇格人事を検討し、方針を見直している。 ・今年度は1件の昇格人事（助教→准教授）を行った。 ・教員定員は充足しており、退職による欠員はないため、募集・採用はない。	・依命国外留学制度への応募意識を醸成。 ・様々な委員を経験し、大学人としての職務経験を積むように、各種委員や担当を交代で担当するように配慮。 ・業務が過重にならないように分担を配慮。 ・学科業務に時間が割かれ、資質向上に関する努力は個人に任せているのが現状。	・年齢構成が安定した組織であるため、大幅な見直しはない。 ・昇格目標にあわせて業務分担を見直している。 ・健康面など業務上配慮すべき状況をくみ取り、配慮するように努めている。 ・所属長による出勤状況の把握。 ・所属長と分野主任による教授以下の職階の教員との職場面談を実施した。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・特にない	【長所】 ・特になし	【長所】 ・成熟した組織としての安定感	【長所】 ・特定の個人への業務集中を避ける意識がある。	【長所】 ・特になし
	【特色】 ・特にない	【特色】 ・特になし	【特色】 ・成熟した組織としての安定感	【特色】 ・特になし。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・学部の補職との整合性と、学科運営時に必要な人事構成のバランス取りが難しい。	【問題点】 ・入学定員の確保のため入試業務の大幅増。	【問題点】 ・個々の教員の自己実現をサポートする組織体制がない。 ・点検・評価は所属長の努力に任せられており、大学組織としてのスキームや、評価の制度はない。
	【課題】 ・学部・学科構想 ・学科定員数 91 名に減少したことに伴う学科教員数減への対応と計画	【課題】 ・学部と学科の補職に適合する人材の調整が難しい。	【課題】 ・昇格候補者のサポート ・学部や学科の将来構想へ向けた連携が必要である。	【課題】 ・教員の質向上には、インプット（勉強会や教員間の交流）が必要。 ・業務量が多く圧迫されている。	【課題】 ・個人の努力において組織が維持され中長期的な展望はない。
根拠資料名	学科教授会資料	学科教授会資料	学科教授会資料	学科会議資料	WEB出勤簿による勤怠管理 職場面談実施記録

学部・研究科名生物産業学部

学部長・研究科委員長名吉田穂積

学科名・専攻名海洋水産学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	海洋水産学科の学位課程にふさわしい授業科目を開設することにより編成した教育課程を実施している。	各教員が適切に講じている。	各教員が適切に行った単位認定に基づき学位授与を行っている。	各教員が適切に把握して評価している。	R5 及び R6 年度カリキュラムについて点検し、より良い内容にブラッシュアップした。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし	【長所】 なし
	【特色】 ・なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし	【特色】 なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・特になし
	【課題】 ・今後も継続する必要がある。	【課題】 ・今後も継続する必要がある。	【課題】 ・今後も継続する必要がある。	【課題】 ・今後も継続する必要がある。	【課題】 ・今後も継続する必要がある。
根拠資料名					

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	適切に入学者選抜制度や体制を点検し、選抜を公正に実施している。	適切な入試を行っており、学科会議などでその内容の点検等を行い、必要があれば改善している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・農学志望者が減少しているため、入学者確保が困難になりつつある。	【問題点】 ・今後の農学志望者の減少状況
	【課題】 ・志願者の増加、入学者の増加	【課題】 ・志願者の増加
根拠資料名		

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☒ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学科会議などで議論、周知している	枠取りなど必要性に応じて実施している	適切に実施することを周知している	様々なFD活動に積極的に参加して、教員個人の資質や組織の改善につなげている	教員組織の適切性について点検・評価を行い、結果を受けて改善・向上に取り組んでいる
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・昇格に対する組織と個人の認識の相違	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・昇格に対する積極性がない教員がいる	【問題点】 ・より深く実施する必要がある	【問題点】 ・教員の急逝など、予期せぬ事がある
	【課題】 ・継続	【課題】 ・継続	【課題】 ・昇格を望まない教員への対応	【課題】 ・FD活動のみならず、教員個人の資質や組織の改善に取り組む	【課題】 ・定期的に実施すると共に、アクションメントにも対応できる体制とする
根拠資料名					

学部・研究科名生物産業学部

学部長・研究科委員長名吉田 穂積

学科名・専攻名食香粧科学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	① 教育課程の編成・実施方針に則り、整合性に留意しつつ教育課程を組み立てている。具体的には、基礎的・基盤的知識の修得と食・香り・化粧に関わる実践的な専門科目を体系的に学ぶため、「総合教育科目」、「外国語科目」、「専門教育科目」の三つの科目区分により授業科目を配当している。 ② 教育課程編成にあたって順次性・体系的性について、カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーの対応図（カリキュラムツリー）を作成し、配慮に努めている。 ③ 単位認定、シラバス・チェック、欠席者のフォローアップ等については、教員間の情報交換を密に行いつつ、適宜学科会議で議論している。例えば教務課からの伝達事項を回覧し、その場で改めて確認する。あるいは評価に関する意見交換を行うなど、学科としての意思統一を図っている。（<u>学科会議資料</u>、教員ポータル等）。 ④ さらに授業内容については、各授業で到達すべき内容と項目の設定について学科カリキュラム検討委員会で実施し、学科会議を通じて各教員に	1、2年生においては、カリキュラムの他に特別プログラム（<u>学科プロジェクト</u>）を準備し、希望者のみが参加できるようにすることで、学生の主体的な学びを促している。また、そのプログラムからの成果物（例えば学生ワイン）を発表することで、学生の学びへのモチベーションを刺激している。また、学科卒業生を含む一線で活躍する社会人を外部講師として活用し、新しいものの見方の教授やホンモノに触れる機会を設定している。学生コスメプロジェクトでは、前年クラウドファンディング（CF）を達成し商品化が実現したハンドクリームに引き続き3年生チームがリップクリームでのCFも達成し、商品化が実現した。2年生チームは網走市からの開発予算を得て、ふるさと納税コスメの開発に取り組んでいる。学生アロマプロジェクトでは、香料会社OBを講師に招き。学生に香りの創作活動に取り組む機会を提供し、学生の調香ニーズに応えている。開発予算を網走市から獲得し、フレーバーとフレグランスの社会実装に向けた取り組みを行っている。 3年生においては、早期の研究室配属活動およびゼミ発表を促すことで、	成績評価においては、シラバスおよび初回の授業において、評価基準を明確に提示している。また、試験後に成績質問期間を設けることで、学生からの評価に対する質問に対して答えている。 学位授与においては、学科にて卒業判定会議を開催し、厳格な判断により学位を授与している。	日頃の研究室での様々な活動時における学生・教員間による交流および、卒業論文中間発表ならびに卒業論文審査を通して、ディプロマ・ポリシーに見合う学習成果を適切に評価している。また、問題があった際には、学科会議を通して学科教員全員に周知することで、情報共有と早めの対処を行っている。	大学指定の授業評価アンケート、卒業時アンケートおよび学科が独自に準備したアンケート（6～7回目の授業で実施）等により、学生からのフィードバックを受け、その結果を学科会議や<u>学科内カリキュラム検討ワーキンググループ</u>において議論することで、改善及び向上に向けて取り組んでいる。

	配信し、これに基づくシラバスを作成した。学生の修学・生活状況などについての共通認識を持つべく努力している（教員ポータル等） ⑤ 授業科目の位置づけに関しては、カリキュラム・ポリシーに則り、学科会議で合議により設定してきた。 ⑥ キャリア教育に関しては、特に1年次よりビジネスマナー講座を必修で設けると共に、特別講義並びに演習を通じて各界のトップランナーに触れ、一緒にワークを通して学ぶ機会を積極的に取り入れている（<u>演習予定表</u>）。希望する3年次に対しては就職対策委員が、独自の対策講座を設定し、個別面接を実施している。 ⑦ 学科専門科目のカリキュラムツリーを作成し、食香粧化学概論においてツリーを提示し学習領域と科目の関係性を解説すると共に、学びとキャリアへ連関について意識付けを学生に行っている。 ⑧ 令和6年のカリキュラム改訂に向けて新カリキュラムを策定中。	卒業論文に関わる実質的な時間を増やしている。客員教授や民間企業の外部講師による実践的授業を設定し、実学に配慮した講義を行うと共に週sh区対策委員による就活ゼミを設定し、就職活動への意識付けを行っている。 4年生においては、定期的な中間発表等を通して卒業論文の指導を綿密に行うことで、学生の知的好奇心を刺激している。 また、国際的な感覚を学生が涵養できるよう海外から一流の研究者を招へいし、講義できるよう取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染蔓延により停止中である。			
現状説明を踏まえた長所・特色	【長所】 ・「総合教育科目」、「専門教育科目」のいずれにおいても、自然科学から食香粧の幅広い分野を、基礎から応用に至るまで段階的に着実に学ぶことができる。	【長所】 1年次から実習科目を多く配当し、座学と実習（体験型）を連動させることで、座学で学んだことをすぐに実習等を通して体験できるようにしている。	【長所】 ・学位授与について、学科教員全員により判定（学科会議）が行われている。属人性の排除により公平性が担保できる。	【長所】 授業開始3回目および8回目での欠席者洗い出し等、丁寧な学生指導により、問題点の早期発見と対処が出来ている。	【長所】 なし
	【特色】 ・1年次から実習科目を多く配当している。特に体験的な実習は、実学への気付きとキャリアを意識した動機付けに役立つ。また3年次には原理を理解する実習を設定し学位課程に相応しい体系を編成している。	【特色】 ・1、2年生は特別プログラム（学科プロジェクト）によって、研究室に入る前から様々な研究活動を体験できる。 ・全ての学科プロジェクトで成果物創出が達成できた。	【特色】 ・単位付与に際し科目責任者が独自の判断をすることを防げる。	【特色】 なし	【特色】 なし

現状説明を踏まえた問題点及び次年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 特定担当教員への負担増。経費が実験実習費を圧迫している。	【問題点】 なし	【問題点】 なし	【問題点】 業務多忙につきカリキュラム検討等の打ち合わせ時間が確保しにくい問題があるが、専任教員数の適正化が図られつつあるので解消が期待される。
	【課題】 ・学生周知の継続性。学年毎に体系周知を繰り返し定着させる必要がある。ポータルチェックの習慣づけと閲覧へのインセンティブが課題。また、科目毎に学びの意義をDPに照らしてガイダンス時に説明する必要性がある。	【課題】 ・外部資金獲得によるプログラムの持続性担保。担当教員の負担軽減の仕組み作り ・特別プログラム参加学生の学習効果の計測。新カリにおける特別プログラムの正課授業への落とし込み。 ・学科プロジェクト以外の高校生を引きつける試みが必要	【課題】 学科DPに照らし合わせたブレない単位付与を学科が主体となり取り組む仕組みの徹底の継続。	【課題】 成績不良者増加傾向への対応。 （アドミッションポリシーのミスマッチを防ぐ方策）	【課題】 業務のスリム化 アンケートの継続
根拠資料名	シラバス 学科会議議事録 学科パンフレット	学科会議議事録、学科SNS、学科プロジェクト SNS、大学ニュースリリース、北海道新聞記事。NHK ニュース配信	学科会議議事録	学科会議議事録	学科カリキュラム検討委員会議事録 学科会議議事録

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	アドミッションポリシーに基づき、生物資源や地域資源を活用する食香粧化学に関心があり、社会貢献に対する強い意欲のもとで、自発的に取り組める学生を求めている。そのため、テストの得点だけで判断する一般入学試験だけでなく、面接を通して人物像を理解できる推薦試験にも力を入れており、現在は生物産業学部全体で一般推薦、指定校推薦の他に、大自然に学ぶ北海道総合型選抜、私の夢北海道総合型選抜のように多様な推薦試験を行うことで、アドミッションポリシーに合致した多様な学生を受け入れることを試みている。推薦系入試合格者には入学前教育の一環として、全員に香りキットを送付（R4のみ未実施）し、学科教育に関わる内容への気づきを促進している。また、学科教員全員で入試判定会議を行うことで、公平かつ客観的な入学者選抜を実施している。また、入試制度毎の成績状況の把握に努めている。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・本学科の特色である香り、化粧に興味がある学生を、多く集めることができている。	【長所】 ・
	【特色】 ・なし	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・一般・共通テストでの受験生確保が厳しい。年内入試で8割以上確保する必要がある。	【問題点】 ・
	【課題】 ・高校生が Web 検索で見つける以外に、学科の全国周知、広報。企業との共同研究を進め耳目を集める必要がある。高校生が将来を考える時期に、D P を効果的にアピールする手段を構築し、実行することが求められる。	【課題】 ・
根拠資料名	学科会議議事録 入試判定会議資料（入試選考会議資料）	

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☐ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ している ☐ 一部している ☐ していない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☐ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☐ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明					
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名					

学部・研究科名生物産業学部

学部長・研究科委員長名吉田 穂積

学科名・専攻名自然資源経営学科

1. 教育課程・学習成果に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 講じている ☐ 一部講じている ☐ 講じていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	学部の共通科目とともに、実学を重視した専門教育科目の体系的なカリキュラム作成を目指している。とりわけ学科の特色ある授業科目として「自然資源経営学実務演習」を開設 することで 、多様なフィールドワーク等を実施している。	学科の教学WGが定期的に会議を開催し、戦略企画委員会や学科会議で検討して様々な措置を講じている。 1 年次はテキストをベースに、レポート作成とプレゼンテーションの基礎を習得する。2 年次より卒業論文作成に向けた専門的な教育指導を受けるためにゼミ選択を行うことができる。	成績評価は、シラバスに評価基準を明示し、定期試験等の適切な方法で習得状況を確認し適切に単位認定している。また、科目毎に成績相談期間を設け、学生からの成績評価に関する質問に応じている。	卒業論文指導は研究室（ゼミナール）の教員ごとに適切に行うが、共通の評価尺度としてループリックを活用している。またゼミ以外の教員による指導を受け場として、研究室単位での中間報告会と、学年全体での最終報告会を開催している。 そして 卒論本体についても指導教員相互による点検を実施している。	学科の教学WGが定期的に会議を開催し、その内容を学科会議で報告し、取り組んでいる。 また 、成績および SP 対策 WG において授業の出席状況を把握し、ゼミ担任を通じて指導している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・基礎的科目から専門科目まで総合的・体系的な履修ができる。	【長所】 ・2 年次から早期に専門的な教育指導を受けることができる。	【長所】 ・なし	【長所】 ・ ループリック 及び複数教員の指導により研究内容の 充実 化を図ることができる。	【長所】 ・授業開始の 3～4 週目の出席状況を確認し、早期対応を図る。
	【特色】 ・オホーツク地域の自然環境や研究フィールドを活かした授業科目があり、文理融合の教育が実践できる。	【特色】 ・1 年次から少人数の基礎ゼミナールを開 講 し、細やかに学生教育をしている。	【特色】 ・なし	【特色】 ・ループリックの導入により卒論の要件が学生 だけでなく 教員に対しても明らかとなっている。	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学科の特色を示す自然資源経営学実務演習において学部内での学科の位置づけを反映しきれていない。	【問題点】 ・学生の希望に基づき 2 年次のゼミ編成を行うため、ゼミ間で人数のバラツキが生じる。	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・ループリックの 一部 の記述がやや抽象的なため、教員間で解釈に相違が生じる場合がある。	【問題点】 ・上記把握に基づく指導等の状況が学科内で共有されていない。
	【課題】 ・自然資源経営学実務演習をより自然資源の「流通・経営」の理解増進に役立つプログラムに改編していく。	【課題】 ・人数の比較的少ないゼミについては、その特色や魅力を学生がいっそう理解できるよう説明を改善する。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・ループリックをいっそう実用的にすべく検討する。	【課題】 ・上記把握に基づく指導等の結果を学科内で共有し、学科全体の指導状況を把握したうえで、改善につなげていく。
根拠資料名	講義要項（シラバス）、履修のてびき、戦略企画委員会会議資料	学科会議資料	講義要項（シラバス）	卒業論文抄録集、ループリック	学科会議資料

2. 学生の受け入れに関する点検・評価項目

	①	②
点検項目	学生の受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に 対する 現状説明	特に推薦系（自己推薦型）の入試に際しては、アドミッション・ポリシーを踏まえた小論文から事前課題（800 字程度）へと変更するとともに、面接時においては主体的に学修できる人材かを確認した。また、評価の基準を示した用紙を担当教員に渡して、面接担当によって評価のばらつきがないように取り組んでいる。	学科の入試選考会議において、学生の受け入れの適切性について総合的に点検・評価を行っている。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・複数の推薦入試において面接を実施することにより、受験者の問題意識や学修意欲、人物等を勘案した入学者選抜ができる。また、評価を点数化することで、公正な入学者選抜ができている。	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	評価基準 各入試の募集要項（大学ホームページ）	入学者としての要件

3. 教員・教員組織に関する点検・評価項目

	①	②	③	④	⑤
点検項目	各学部・研究科等の教員組織の編制に関する方針を明示しているか。	教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	教員の募集、採用、昇任等を適切に行っているか。	教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。	教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。
自己評価 (☑を記入)	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ している ☐ 一部している ☐ していない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない	☒ つなげている ☐ 一部つなげている ☐ つなげていない	☒ 行っている ☐ 一部行っている ☐ 行っていない
点検項目に対する 現状説明	分野及び研究室の特色を示し、学科会議等で検討をしている。 教員募集の際には学部・学科の方針を踏まえた内容を提示している。	分野・研究室の特性や教員の年齢構成・専門分野を考慮し、教員配置を行ってきた。 しかし 、現状の2分野5研究室体制では、ややアンバランスが生じており、2024年度に 向けて 1研究室3名体制を考慮した2分野4研究室体制を整備した。	教員採用は一般公募として、大学のホームページ、JREC-IN で募集情報を掲示している。 昇格等は自己申請を基本とするが、大学の定める審査基準に 基づき 公正かつ厳格に実施している。	学生が回答する授業評価アンケートの結果に基づいて、各教員が授業改善に取り組むほか、必要に応じて学生からの聴き取りを実施 することで 、問題把握に努め、改善を図っている。	学科の人事委員会で人事計画を立案し、これを学科会議等で確認・共有している。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・なし	【長所】 ・2分野4研究室体制 へ の移行により、1研究室3名体制を目指している。	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし	【長所】 ・なし
	【特色】 ・なし	【特色】 ・オホーツクの研究フィールドを活かした特色ある分野・研究室名称とした。	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし	【特色】 ・なし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・2023年度末の退職予定者が生じ、1研究室3名体制に向けて3名の欠員がある。	【問題点】 ・2名の募集を行ったが、募集期間が短い等の問題もあり、適任者の募集がなく、新規採用できなかった。	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・2023年度は3名の教員募集・採用を行う必要がある。	【課題】 ・募集期間をより長くするほか、 専門分野 に関連する学会にも募集情報を掲載するなどの工夫を行う。	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	学部・学科・課程紹介 教員公募案内（ホームページ）	学部・学科・課程紹介	資格審査委員会資料	授業評価アンケート	学部・学科・課程紹介

学部・研究科名 生物産業学部
学部長・研究科委員長名 吉田 穂積
学科名・専攻名 北方圏農学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■2024 年度からの教育課程の改正にむけた実験・実習内容の見直し 令和 6 年度（2024 年度）からの教育課程の改正実施にあたり、実験と実習内容を関連付けて見直し、学科の特色ある教育を確立する。	■2024 年度からの教育課程の改正にむけたカリキュラムの見直し 令和 6 年度（2024 年度）からの教育課程の改正実施にあたり、北方圏農学科の講義科目の見直しと配当年次・学期の見直しを行い、学生がより効率的に履修できるカリキュラムを立案する。	■リメディアル教育を活用した学生の基礎学力向上 1 年次のリメディアル教育「文章表現」の教材受講によって文章読解と記述能力を養成し、学習習慣を付けさせることで基礎学力向上をめざす。原級・留年率を低下させる。
実行サイクル	3 年サイクル（令和 4 年～ 6 年）	3 年サイクル（令和 4 年～ 6 年）	4 年サイクル（令和 4 年～ 8 年）
実施 スケジュール	2022 年度：教学 FD 委員会を中心としたカリキュラム立案 2023 年度：学則改正と運用に向けた準備 2024 年度：運用開始と検証	2022 年度：教学 FD 委員会を中心としたカリキュラム立案 2023 年度：学則改正と運用に向けた準備 2024 年度：運用開始と検証	2022 年度：リメディアル教育の実施 2023 年度：受講者の GPA 追跡調査と原級率調査 2024 年度：受講者の GPA 追跡調査 2025 年度：受講者の GPA 追跡調査と留年率調査
目標達成を測定する指標	・シラバス作成 ・授業評価アンケートによる検証	・シラバス作成 ・授業評価アンケートによる検証	・受講者の GPA ・原級率 ・留年率
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・実験実習ワーキンググループを作り、見直し案を策定、学科会議において議論を重ねた。 ・内容を立案した。	・学科教学 FD 委員と学科長が主導し、学年における配当科目数と開講学期の見直しを行った。 ・内容を立案した。	自学自習教材「すらら」の導入と学科教員の勉学指導により、1 年次の学習において課題提出率の良かった学生の GPA がその後の追跡調査により向上する結果が得られた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・現状に則した内容を設定し、新しい実験技法を取り入れる内容とした。	【長所】 ・学生が履修しやすい科目配置となった。	【長所】 ・学生の質の向上につながり、学科の教育レベルの向上が期待される。
	【特色】 ・「分子から生態まで」学科の特色をピックアップした魅力ある内容になった。	【特色】 ・3 年生が研究室活動に時間を割きやすい配分となった。	【特色】 ・読解力の向上がその後の成績向上につながる。原級者、中退者の減少に効果が期待される。
現状説明を 踏まえた	【問題点】 ・特になし。	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・教材費の計上。現在は教務課の試行的な予算での運営。
問題点及び次 年度への課題	【課題】 ・次年度に実験実習テキストの全面改訂が必要。	【課題】 ・特になし	【課題】 ・リメディアル教育の在り方。継続的な予算処置。

根拠資料名	学科会議資料	学科会議資料	学科会議資料
-------	--------	--------	--------

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■連携協定を活用した研究環境整備 連携協定を締結した財団、企業、独立行政法人との研究協力体制を構築し、外部との研究交流から研究の活性化	■外部資金または競争的資金への応募推進 競争的資金への応募を推進し、積極的に学内学外研究者とのプロジェクトを構築、研究を活性化する。	■外部講師を招聘したセミナー、学会、学術集会の開催 研究環境の活性化のために、大学院と連携し外部講師を招いたセミナーを年一回企画する。学会や学術集会の開催機会があれば積極的に応募する。
実行サイクル	___4___年サイクル（令和 1年～ 4年）	___3___年サイクル（令和3年～5年）	___3___年サイクル（令和3 年～5年）
実施 スケジュール	・4月―8月連携協定先との課題打ち合わせ ・～9月計画立案 ・10月～3月予算化に関する協議	4月―8月課題打ち合わせ 9―10月科研費応募 11―3月学内プロジェクト構築のための準備	・4―9月実施予定立案および打診 ・4―3月セミナー開催
目標達成を測定する指標	・報告書 ・卒業論文	・研究費獲得 ・成果報告書	・セミナー実施回数 ・学会開催回数
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	受託研究12件	科研費受給（代表・分担含む）8件 競争的資金件数3件	日本鳥学会開催（2022年11月4日～6日：オホーツクキャンパス） 農研機構・東京農業大学マッチングファンド型プロジェクトセミナー（2022年12月2日オンライン開催）
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・活発な研究活動が行われている	【長所】 ・活発な研究活動が行われている	【長所】 ・活発な研究活動が行われている
	【特色】 ・活発な研究活動が行われている	【特色】 ・活発な研究活動が行われている	【特色】 ・活発な研究活動が行われている
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・なし
	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし	【課題】 ・なし
根拠資料名	成果報告書 卒業論文	成果報告	学会誌 セミナー案内

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■学生確保に向けたとりくみ オホーツクキャンパスの地域性と H30 学科名称変更をふまえ、学部 の入試活動との連携をはかりながら学科の魅力づくりに取り組む	■学生のより良い生活習慣サポートの取り組み フレッシュマンセミナーと連携しながら、学生の登校をうながし、授業 を中心とした生活習慣作りをサポートし、留年率と退学者数、不登校人数 を減らす。教員と学生とのコミュニケーションをはかる	
実行サイクル	4 年サイクル（令和1年～令和4 年）	4 年サイクル（令和4年～7年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	・4月～5月オープンキャンパスの計画立案 高校訪問の計画立案 ・5月～3月オープンキャンパス SNS 発信	・4月企画立案と施行 ・5月実施結果の検証	
目標達成を測 定する指標	オープンキャンパスアンケート SNS 閲覧数 受験者数	原級率 留年率 不登校者数	
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☒ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	オンラインと対面型オープンキャンパスを実施した。6月に高校訪問 実施。加えて、11月と3月にも教員の出張にあわせて高校訪問を実 施した。進学説明会 件、模擬講義 件を実施した。ホームページを 刷新した。SNS のフォロワー数は1300を超えた。	原級率：8.33 % （在籍者 84 人中 7 人）（全学平均 5.07 %） 留年率：7.62 %（在籍者 105 人中 8 人）（学部平均 3.75 %）	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】学科の魅力を様々な方法で伝えることができた。SNS は在 学生保護者から評価が高い。	【長所】複数の担任によるこまかな指導。学科会議における学生の欠席数 の報告、OneDrive を使った出席状況の把握と共有	【長所】 ・
	【特色】 ・受験者数は前年度を下回ったが、入学定員を上回ることができた。	【特色】きめ細かい適切な指導を行っていると思えるが、原級と退学者が 減る見込みがない。	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】学科教員の独自の取り組みに頼るところが大きく、業務負 担はおおきい。	【問題点】 ・原級率、留年率ともに平均を上回る	【問題点】 ・
	【課題】入学者の質の確保のために、受験生を確保し、学科の偏差値 をあげていく必要がある。	【課題】入学前に受験生と学科とのマッチングを強化する必要がある。入 学後のリメディアル教育が重要。節制度の見直しが必要。	【課題】 ・
根拠資料名	入試対策委員会資料	全学教授会資料	

学部・研究科名生物産業学部
学部長・研究科委員長名 吉田穂積
学科名・専攻名海洋水産学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■教育カリキュラムの深化 今後予定される新たな教育カリキュラムの編成に向けて、特に 1・2 年次にとって魅力のある学科専門分野と学部横断型の学びに重点を置いたカリキュラムを策定する。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和4年～令和5年）	年サイクル（平成 年～ 年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	<令和4年度> ・1 研究室3名体制の完成に伴う学科カリキュラムの充実（～3月） ・学科内での問題意識の擦り合わせ、具体的方針の策定（～8月） ・大学及び学部のカリキュラム編成方針を踏まえ、FD 委員会を中心に学科専門カリキュラムと学科としてあるべき学部横断型のカリキュラム内容の検討（～12月）		
目標達成を測定する指標	<令和4年度> ・基礎実験・臨海実習および海洋水産体験実習のメニューの改訂 ・あるべき学科専門カリキュラムと学部横断型カリキュラムについて問題意識をすりあわせる		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	R5 年度カリキュラムを見直すと共に、R6 年度からの新カリを学部横断型カリキュラムを踏まえて作成した。 実験・実習については次年度さらなる検討を実施する予定。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・現状を踏まえたより良い新カリが完成した。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・実験・実習の具体的な内容に再検討が必要かも知れない。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・実験・実習内容の再検討と必要なら改善	【課題】 ・	【課題】 ・

根拠資料名	新カリキュラム		
-------	---------	--	--

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■地域のニーズに則した研究活動の実施 10年を経過した海洋水産学科では、学科の専門性を活かし、網走市、オホーツク圏、北海道、さらにつながりを持つ海域・地域におけるニーズに応えるべく、教員・研究室それぞれの研究活動の幅を広げ、内容を深化させる。その研究成果を学科の学生教育及び地域・社会等に広く還元する。		
実行サイクル	2 年サイクル（令和4年～令和5年）	年サイクル（平成 年～ 年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	<令和4年度> ・現在までの具体的取組内容の整理、今後の可能性についての検討（～3月）		
目標達成を測定する指標	<令和4年度> ・地域との共同研究の現状把握、課題の抽出 ・共同研究の開始状況		
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	・個々の教員による地域の課題の抽出が行われている。 ・コロナ禍により、従前行われていた研究交流などが制限されたことなどにより、共同研究の開始には至っていない。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 なし	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 なし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 課題の抽出とその解決に向けた方策を策定する方法の模索が必要	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 十分な研究交流の機会の確保	【課題】 ・	【課題】 ・

根拠資料名	なし		
-------	----	--	--

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■受験生（学生）確保に向けた取り組み オホーツクキャンパスの地域性及び今後予定されるカリキュラム変更を踏まえ、ディプロマポリシーに沿った高い目的意識を持つ受験生を確保するため、大学・学部全体による広報・募集活動に加えて、積極的な取り組みを展開する。		
実行サイクル	3 年サイクル（令和4年～令和6年）	年サイクル（平成 年～ 年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	＜令和4年度＞ ・指定校の検討（～4月） ・学科教員の合意による方針の策定（～10月） ・機会を捉えた積極的な情報発信（随時）		
目標達成を測定する指標	＜令和4年度＞ ・現行実施の広報関係企画の評価作成、課題の抽出 ・令和5年度入試志願者状況		
自己評価 (☑を記入)	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科のインスタグラムを始めるなど、広報活動を積極的に展開した。 R5年度新入生を目標以上の数確保した。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・インターネットを活用した積極的な広報ができた。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・特になし	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・特になし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・積極的な広報の継続とさらなる検討	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	入学手続き者数		

学部・研究科名 生物産業学部
学部長・研究科委員長名 吉田穂積
学科名・専攻名 食香粧化学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■新教育カリキュラムの設定 学部・学科のアドミッションポリシーに基づく新しい教育カリキュラムへの改正に向けて、学部共通の学科横断的体験型プログラム等を踏まえ、その中で、天然資源および食品や香粧品素材の性質や製造原理など基礎から応用まで総合的な学びに重点を置いた学科の特色・専門性をより活かせる学科専門カリキュラムを策定する。	■学科プロジェクトの推進とヒカル学生の創出 1年生、2年生に向けた「食・香・粧」領域を取り扱う学科のプロジェクトを設定し、有志学生を募り、研究活動のフックとなるような気付きを涵養する。モチベーションの高い学生のニーズに応えるプロジェクト設定により、学生のやる気の継続と充実感の向上を図る。キャンパス見学会や収穫祭、SNS等のチャネルによる成果発表により、学生保護者や受験者にも訴求する好循環を形成する。 地域に貢献する学生を創出する。	
実行サイクル	2 年サイクル（令和 3 年～ 令和 4 年）	2 年サイクル（令和 3 年～令和 4 年）	年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	・学科3ポリの検証・再編 令和4年4月 ・学科が輩出人物像の設定 5月 ・学科カリキュラムポリシーに基づく科目構成の構築 5月～7月 ・構築した科目のシラバス作成と科目間連携の明文化 9月 ・構成科目の実効性検証 10月 ・大学・学部科目間調整 11月	・学科プロジェクトの設定と募集（4月） ・プロジェクトの開始（4月～随時） ・プロジェクトのカリキュラム化、授業科目化検討 5月～7月	
目標達成を測定する指標	<令和4年度> ・学部に提出した新カリキュラム案	<令和4年度> ・各プロジェクトの SNS コンテンツ ・開発製品（商品）の現物	
自己評価 （☑を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明	学科の新カリキュラムについては設定が完了した。	ものづくりを標榜した5つのプロジェクト全てで、商品化（製品化）を達成できた。 プロジェクトで成果を得た学生が主導するオープンキャンパスを開催した。	
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・食品業界だけでなく、香料や化粧品業界への人材輩出が可能 ・感性豊かな人材の創出ができる	【長所】 ・社会との接点を持つことでの人間力向上が期待できる。	【長所】 ・
	【特色】 ・食品、香料、化粧品がカリキュラムで学べるユニークな科目構成	【特色】 ・低学年で商品開発を主体的に体験できる。	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた	【問題点】 ・学部カリキュラムが確定していないため、学科カリキュラムとの連	【問題点】 ・運営資金の確保。商品の在庫リスク。	【問題点】 ・

2022（令和4）年度 包括的な点検・評価報告書

様式2

問題点及び次年度への課題	関が計れていない		
	【課題】 ・学科新カリキュラムについては、科目間連携を踏まえたシラバス作成が課題。	【課題】 ・プロジェクト参加者が「ヒカル」学生になったのか？アセスメントが必要。	【課題】 ・
根拠資料名	学生教務課へ提出した学科カリキュラム	・大学プレスリリース、NHK 放送コンテンツ、北海道新聞記事 ・学科や各プロジェクトの SNS	

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	■ 連携協定や共同研究等を活用した研究プロジェクトの実施と国際化 学科の専門性を活かした食品、香料および化粧品をテーマとする連携研究プロジェクトを関連企業あるいは研究機関と企画・実施するとともに、この研究成果を学科の学生教育及び地域・社会等に広く還元する。 共同研究の対象を海外研究機関に広げ、研究の推進と国際交流を促進する。		
実行サイクル	_____2_____年サイクル（令和 4 年～令和 5 年）	_____年サイクル（平成 _____ 年～ _____ 年）	_____年サイクル（平成 _____ 年～ _____ 年）
実施スケジュール	・サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社との包括連携協定締結 令和5年 5月18日 ・サントリーとの共同研究検討 5月～6月 ・共同研究契約締結 10月		
目標達成を測定する指標	協定や契約の締結		
自己評価 （ ☒ を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する現状説明	・サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社（SIC）とは3件の共同研究を実施している。 ・ノルウェーの研究機関との共同研究を実施している。 ・SIC の青玉柚子の案件では、学科プロジェクト熊谷喜八道場で開発したレシピが社会実装された。		
現状説明を踏まえた	【長所】 ・大きな企業や国際機関との共同研究は研究の加速化が期待できる。	【長所】 ・	【長所】 ・

長所・特色	【特色】 ・単なる研究に止まらず人材交流がある。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・なし	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・成果構築と学会発表や報文化、知財化が課題	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	連携協定書。共同研究契約書		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標			
実行サイクル	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）	_____年サイクル（平成 _____年～ _____年）
実施 スケジュール			
目標達成を測 定する指標			
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に 対する 現状説明			
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名			

学部・研究科名 生物産業学部
学部長・研究科委員長名 吉田 穂積
学科名・専攻名 自然資源経営学科

1. 教育に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	学科のフィールドを活用した幅広い学びを展開するための選択科目「自然資源経営学実務演習（一）（二）（三）」の実施と評価	学科の学びの集大成としての卒業論文の質保証のための全体発表会および計画的に実施するためのルーブリックの導入と検証	個人面談の実施による履修状況の把握と成績不振学生の早期把握と個別指導（原級者・留年者対策）
実行サイクル	3 年サイクル（2020 年～2022 年）	2 年サイクル（2021 年～2022 年）	3 年サイクル（2020 年～2022 年）
実施 スケジュール	4 月 ガイダンスの実施（履修登録） 5 月 各プログラムの実施（1 月迄） 1 月 成績評価と点検	4 月 卒論ルーブリックの導入（学生への周知） 10 月 4 年生「卒論中間発表会」（研究室） 11 月 3 年生「卒論構想発表会」（研究室） 1 月 4 年生「卒業論文発表会」（全体）	5 月 個人面談の実施（ゼミ毎） 5 月末、11 月末 c-learning による出欠状況の把握（全体共有） 成績および SP 対策 WG での対策と指導案
目標達成を測定する指標	履修者の成績評価 アンケートによる満足度調査	ルーブリックによる評価 成績評価	学生カルテの作成 原級者数、留年者数
自己評価 （☑を記入）	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	・履修者の成績評価は概ね良好であったが、アンケートの実施による満足度調査は実施できなかった。	・ルーブリックを使用した卒業論文指導を行ったほか、上記発表会を実施することができた。	・個人面談や定期的な c-learning による出欠状況の把握（全体共有）などを行ったが、対応策は個々の教員に委任された。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・学生の幅広い関心に応じて 3 年間選択することが可能である。	【長所】 ・ルーブリック導入及び複数教員の指導により研究内容の充実化を図ることができた。	【長所】 ・授業開始の 3～4 週目の出席状況に基づき、早期対応を図れる。
	【特色】 ・オホーツクの自然環境等を活かした実践的な教育研究となっている。	【特色】 ・ルーブリックの導入により卒論の要件が学生及び教員に対し明らかとなっている。	【特色】 ・特になし
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・学科の特色を示す自然資源経営学実務演習において学部内での学科の位置づけを反映しきれていない。	【問題点】 ・ルーブリックの記述がやや抽象的なため、教員間で解釈に相違が生じる場合があった。	【問題点】 ・上記把握に基づく指導等の状況が学科内で共有されていない。
	【課題】 ・自然資源経営学実務演習をより自然資源の「流通・経営」の理解増進に役立つプログラムに改編するほか、受講学生へのアンケートなど教育成果を測定し分かり易く伝える工夫を行う。	【課題】 ・ルーブリックをいっそう実用的にすべく検討する。	【課題】 ・上記把握に基づく指導等の結果を学科内で共有し、学科全体の指導状況を把握したうえで、改善につなげていく
根拠資料名	講義要項（シラバス）、履修のてびき、 戦略企画委員会会議資料	卒業論文抄録集、ルーブリック	学科会議資料

2. 研究に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	産業経営学会による『自然資源経営学科テキスト』の作成に向けた研究会の実施		
実行サイクル	__3__ 年サイクル（2020 年～2022 年）	_____ 年サイクル（平成 年～ 年）	_____ 年サイクル（平成 年～ 年）
実施 スケジュール	5 月以降 定例研究会の実施 9 月以降 目次構成の検討 3 月 原稿依頼		
目標達成を測定する指標	原稿依頼		
自己評価 (☑を記入)	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	・ 目次構成の検討に時間を費やし、原稿依頼が実施できなかった。		
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・ 自然資源経営学科の学びを体系的に学べるテキストにする。	【長所】 ・	【長所】 ・
	【特色】 ・ 自然資源経営学概論をベースにした構成となっている。	【特色】 ・	【特色】 ・
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・ 目次構成の検討に時間を要している。	【問題点】 ・	【問題点】 ・
	【課題】 ・ 新規採用教員のことも踏まえた刊行スケジュールの再検討。	【課題】 ・	【課題】 ・
根拠資料名	戦略企画委員会資料		

3. その他に関する総合的事項

	①	②	③
目 標	2024 年度新カリキュラムに向けた学科専門科目の改正とカリキュラムツリーの作成	受験生確保に向けた学科独自パンフレットの作成と指定校への送付	受験生確保に向けた北海道内の農業高校との情報交換
実行サイクル	<u> 3 </u> 年サイクル（2020 年～2022 年）	<u> 1 </u> 年サイクル（2022 年～2022 年）	<u> 1 </u> 年サイクル（2022 年～2022 年）
実施 スケジュール	4 月 学科 3 ポリシーの検討 5 月 学科専門科目の検討 6 月 カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの作成 9 月 改正カリキュラムの提出	4 月 指定校の選定、パンフレットの発注 5 月 パンフレットの納品、指定校への送付 5 月以降 入試イベントでのパンフレットの活用	6 月 情報交換を実施
目標達成を測定する指標	改正カリキュラムの作成	入試イベントへの参加者数 受験者数	入試イベントへの参加者数 受験者数
自己評価 （ ☒ を記入）	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☐ 達成した ☒ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更	☒ 達成した ☐ 一部達成した ☐ 達成できず要継続 ☐ 達成できず目標の変更
目標に対する 現状説明	・計画通りのスケジュールで改正カリキュラムを作成できた。	・オープンキャンパス等のイベントで配布することができた。 ただし 、指定校への送付は送料もかかるため実施しなかった。 なお 、学科のホームページからパンフレットをダウンロードすることが可能である。	・静内農業高校との情報交換を行い、3 月のオープンキャンパスに教員と学生を受け入れた。
現状説明を 踏まえた 長所・特色	【長所】 ・自然資源を活用した商品開発やツーリズムビジネス等に関する科目を 新たに 加えている。	【長所】 ・ 写真付き の折りたたみ式のインパクトのある形状のパンフレットである。	【長所】 ・北海道の農業高校との関係性を強化する。
	【特色】 ・学部理念にもとづき、3 ポリシーを作成し、2 分野 4 研究室体制とも関連したカリキュラムになっている。	【特色】 ・学科のフィールドでの実践的な学びを表現した内容になっている。	【特色】 ・経営・ビジネスの視点から農業高校との関係性を強化する。
現状説明を 踏まえた 問題点及び次 年度への課題	【問題点】 ・専門共通科目「地域と生物産業」の 内容 について議論が深められなかった。	【問題点】 ・指定校全校には配布できる予算がない。	【問題点】 ・北方圏農学科との差別化。
	【課題】 ・「地域と生物産業」「特別講義（一）～（四）」の 内容 の検討。	【課題】 ・2024 年度の新しい研究室体制を踏まえた内容に更新する。	【課題】 ・継続的に関係性を保持していく。
根拠資料名	学部カリキュラム委員会資料	学科パンフレット	